

1 単元名 目指せ！読み取り名人！

教材文 「ヤドカリとイソギンチャク」（東京書籍 四上）

2 単元について

〈本単元で取り上げる指導事項〉

C読むこと (1)イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

〈教材の特質〉

本教材「ヤドカリとイソギンチャク」は、話題提示、問い1、問い2、問い3、まとめという5つの意味段落で明確に構成されており、児童に段落相互の関係を考えさせながら内容を正確に読み取ることに適した教材である。また、「まず」「次に」「実は」「では」などの接続語に着目させることで、段落どうしのつながりをとらえやすい構造になっている。さらに、3つの問いと答えを読み進めていくことで、二者それぞれにとっての利点に分かり、互いに助け合って生きているという筆者の主張がとらえやすい展開になっている。

補助教材として、共生する生き物について書かれている本を用意し、自分の選んだ本の筆者の論の展開の仕方を読み取る。論の展開の良さを互いに紹介し合うことで、助け合って生きる生き物について興味をもつとともに、様々な文章にであったときに、文章構成に気をつけて読み取る力が育つと考える。

〈本単元に関わる子どもの実態〉

- ・3年教材「自然のかくし絵」「もうどう犬の訓練」では、段落ごとに内容をとらえながら文章を読むことを学習している。形式段落を見つけることは出来るが、文章ごとの内容を短く要約することに関しては個人差がある。
- ・語彙の少なさから自分が考えたことを相手にうまく伝えられないことがある。学習では、ペア学習やグループ学習を取り入れて、自分の考えたことを相手に伝える場を多く設けるようにしている。
- ・NRTの結果から、文章の内容を整理すること、話の中心をまとめることが苦手な児童が多く見られた。そのため、3年に学習した要約の仕方を振り返ったり、キーワードにサイドラインを引いたりするなどの支援を行っている。

〈つきたい力〉

○中心となる文や語をとらえて段落相互の関係を考えることができる。

- ・中心となる文や語をとらえて、それぞれの段落を要約することができる。
- ・段落ごとのまとまりを考えて、見出しをつけることができる。
- ・段落相互の関係を考えながら、文章のまとまりを考えることができる。

○文章のまとまりをとらえて、どのようなことが書かれているかを自分の言葉でまとめ、それを友だちと紹介し合うことで、筆者の論の展開の良さに気づくことができる。

- ・ワークシートをもとに、意味段落ごとに分けて読み取り、論の展開についてまとめることができる。
- ・友だちと紹介し合い、筆者の主張や論の展開の良さに気づくことができる。

つけたい力の明確化

○つけたい力の系統性

【既習】	【本単元】	【次単元】
・段落ごとの内容をとらえながら文章を読むことができる。	・段落ごとの内容をとらえ、段落相互の関係を考えて読む。	・文章の構成を考えながら読み、要旨をとらえる。

○学習用語 まとまり（意味段落） 接続語 問い・答え

単元展開の工夫

単元の導入では、司書教諭のブックトークで共に助け合って生きる生き物について紹介する。共生する生き物について書かれている本から筆者の論の展開の良さをまとめ、友だちに紹介する活動を単元の最後に行うことを伝える。ゴールイメージを明確にもたせて意欲づけをし、並行読書に取り組みせたい。また、筆者の説明の仕方や論の展開を正しく読み取れるように、第二次で学習していくことを伝え、第二次への意欲づけとする。

第二次では、3年で学習した要約の仕方を確認し、その上で、各段落にどんなことが書かれているのかを考えながら、文章全体を通読する。文章のまとまりを、視覚的にとらえさせたり、学習を振り返る際の支援としたりするために教室に説明文の全文を拡大掲示しておく。接続語や問いと答えを手掛かりに文章全体を「始め」「中」「終わり」に分けて内容を大まかにつかみ、まず「終わり」に筆者のどんな主張が書かれているかを読み取らせる。筆者の主張を先に知り、そこに向かってどのように論の展開がされているかを押さえながら、学習を進めていく。「中」のまとまりは、「ヤドカリがイソギンチャクを付ける理由(ヤドカリの利益)」「イソギンチャクの付け方」「イソギンチャクの利益」の3つに分かれている。接続語が適切に使用されていることで、問いと答えの関係や話題の転換がはっきりとしていることを確認しながら、段落相互の関係を読み取らせていく。3つのまとまりの順序を入れ替えたり、無くしたりしながら読むことを通して、それぞれのまとまりが、相互に関係していることや筆者の主張に向けて展開されていることを読み取らせたい。

第三次では、自分が選んだ共生する生き物について書かれている本の筆者の主張や論の展開を読み取り、友だちに紹介する。文章のまとまりをとらえて、どのようなことが書かれているかを自分の言葉でワークシートにまとめることによって、筆者の論の展開のよさに気づかせたい。

主体的な学びをつくる工夫

- ・学習を見通せるように単元計画を掲示し、毎時間本時の位置を確認する。(個人、全体)
- ・学校図書館と連携して「共生する生き物コーナー」を設置し、第三次にスムーズに取り組めるようにする。
- ・学習に主体的に参加できるよう、家庭学習で教材文から大事な言葉や文を見つけ、その言葉に印をつけさせる。
- ・説明文の構成をとらえるために拡大した文章を掲示し、学習の足跡を残す。
- ・ペア、グループ学習を取り入れることで互いの考えを交流させ、対話的な学習になるようにする。

〈本単元の目標と評価規準〉

目標	<p>○段落ごとの内容をとらえて、段落相互の関係を考え、筆者の主張とそれを支える理由や事例との関係を読むことができる。</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。</p>		
評価規準	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
	<p>① ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味をもち、何がどのように説明されているのかを進んで読み取ろうとしている。</p> <p>② 選んだ本について、説明の仕方や筆者の考えを読みとろうとしている。</p>	<p>① 段落相互の関係を考え、説明のまとまりを見つけながら読んでいる。</p> <p>② 筆者の考えや論の展開の仕方についての良さを自分なりに考えている。</p>	<p>① 問いと答えを表す語句や話題を変える語句に着目しながらまとまりをとらえている。</p>

4 単元構想 (全10時間)

	次	主な学習活動	評価規準【 】と評価方法()
つかむ		○教室に「共生する生き物コーナー」を設置して、いろいろな生き物についての興味を喚起する。	
	一	共に助け合う生き物に関する本を読んで、筆者の話の進め方の工夫を読み取り、感想を伝え合う学習計画を立てる。	
	1	○ブックトークを聞き、助け合う生き物について興味をもち、学習課題を知り、学習に見通しをもつ。紹介し合う活動をするを知らせ、助け合って生きる生き物について本で調べる。	【関①】助け合って生きる生き物について興味をもち、進んで本を読もうとしている。 (ノート・発言・行動観察)
	2	○教材文全体を通読し、形式段落を確かめて文章全体をつかむとともに難しい語句について意味調べをする。	【言①】難解な語句について、語句調べをして、意味を理解している。 (ワークシート)
取り組む	二	説明文の構成について理解し、筆者の論の展開の仕方について考える。	
	3	○物語全体の構成をつかみ、「始め」・「中」・「終わり」に分ける。	【読①】問いと答えを表す語句や話題を変える語句に着目しながらまとまりをとらえている。 (発言・ワークシート)
	4	○「終わり」に書かれていることを読み取り、ヤドカリとイソギンチャクの関係をもとめる。	【読①】ヤドカリとイソギンチャクが互いに助け合って生きている関係であるという筆者の主張を読み取っている。 (発言・ワークシート)

		5	○「問1」からヤドカリがイソギンチャクを付ける理由を読み取る。	【読①】ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由を読み取り、意味段落に見出しをつけている。 (発言・ワークシート)
		6	○「問2」からヤドカリがイソギンチャクを移す方法を読み取る。	【読①】ヤドカリがイソギンチャクを貝殻に付ける方法を読み取り、意味段落に見出しをつけている。 (発言・ワークシート)
		7	○「問3」からヤドカリに付いたイソギンチャクの利益を読み取る。	【読①】イソギンチャクがヤドカリに付くことで得られる利益を読み取り、意味段落に見出しをつけている。 (発言・ワークシート)
		8 (本時)	○段落相互の結びつきに着目して、筆者の論の展開について考える。	【読①】段落相互の結びつきによって筆者の主張を述べるための工夫があることを理解している。 (発言・ワークシート)
ふり返る	三	自分の選んだ本の筆者の論の展開をまとめ、自分の考えを伝え合う。		
		9	○自分の選んだ本を読み、ワークシートを使ってまとめる。	【関②】選んだ本について、説明の仕方や筆者の考えを読みとり、進んでまとめようとしている。 【読①】筆者の考えがどのように述べられていることを理解して読んでいる。 (発言・ワークシート)
		10	○選んだ本の筆者の論の展開の工夫をまとめ、友だちと紹介し合う。	【読②】文章を読んで感じたことや考えたことを伝え合い、互いの感じ方や考え方の違いに気づいている。 (発言・ワークシート)
広げる	○これから本を読む時、話のまとまりごとに何が書かれているかを考えながら読む。 ○説明文を読んで自分なりの意見をもつ。 ○読む人に自分の考えが伝わりやすい文章構成を考えながら、文章を書く。			

4 本時の学習

- (1) 目 標 段落相互の結びつきに着目して、筆者の論の展開について考えることができる。
- (2) 評価規準 筆者の考えや論の展開の仕方についての良さを自分なりに考えている。(読②)
- (3) 準 備 教師：教材文拡大コピー ワークシート まとまりの短冊 児童：ワークシート
- (4) 学習過程

<p>学習活動と教師の働きかけ ・予想される児童の反応</p>	<p>○留意点と評価 (観点)【評価方法】</p>
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前時までに学習した3つの問いと答えを整理し、説明文全体を振り返り、本時への意欲づけをする。</p>
<p>め) 筆者がどのように考えを伝えようとしているのかを考えよう。</p>	
<p>2 筆者がなぜこのようなまとまりの構成、順序にしたのかを考え、話し合う。</p> <p>○どれかのまとまりをなくしたらどうなる？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たがいに助け合っている」だから、ヤドカリもイソギンチャクどちらのまとまりも無くしたらいけない。 ・どちらの利益ものせないと、助け合っているにならない。 <p>○まとまりが入れ替わったらどうなる？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤドカリとイソギンチャク」だから、ヤドカリの利益、イソギンチャクの利益という順序が良い。 ・間にイソギンチャクのまとまりを入れると、ヤドカリの説明がわかりにくくなる。 	<p>○文章のまとまりの小見出しを並べて、それらの結び付きを表で整理する。</p> <p>○問い1～3のまとまりを異なる順序に入れ替えて読ませ、段落相互のつながりがおかしいところがないか考えさせる。</p> <p>○段落相互の関係に気づくことができるよう、まとまりを短冊状にして、グループごとに入れ替えられるように準備する。</p> <p>○論理的に考えて説明できるよう、「まとまり○がないと、～につながらない。なぜなら…だからです。」「まとまりの○と○を入れかえると～です。わけは、…だからです。」という説明の仕方を示す。</p>
<p>3 筆者の論の展開の仕方をワークシートにまとめ、論の展開について自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまり2と4を入れかえると、まとまり1で「いかにも重そうに見えます」と書かれていることにつながらない。 ・まとまり3は利益ではないけれど、読んでいる人が疑問に思うことに答えているから無くしてはいけないと思う。 	<p>【評価】段落相互の結びつきによって筆者の考えが述べられていることを理解している。 (読む能力) [ワークシート]</p> <p>○書くことが苦手な児童に対しては、「まとまり○がないと…」、「まとまりの○と○を入れかえると…」という文型を示し、今までの板書を振り返りながら書くよう助言する。</p>
<p>4 学習のまとめをする。 児童の振り返り 全体の振り返り</p>	

